



バッタ・キリギリスの特徴・生態、市民が体感 市民協議会の調査まとまる

～個体の特徴、植生による生存の違いを児童、一般住民が調査～

江戸川区内の5市民団体等で構成される里川小松川自然地協議会は、2012年度、東京都新しい公共のモデル事業の一環で、年間2000人規模の生物多様性活動を実施。東京荒川で、外来種の除草などを通じて、多くの生物種や生態系の理解を促進し、首都圏東京において、人と自然との関係性の構築に努めています。

【今回の試み】

地域住民を川へ呼び戻す一環で自然調査プログラム【バッタ・キリギリス調べ】を実施しました。昆虫についてほとんど何も知らない、幼児から小学生とその両親、企業社員や家族の方々を対象に同種の見分け方や、発見地などを調べてもらうプログラムを推進しました。プログラムの参加者は519人になり、いわゆる素人市民への啓発を実現するとともに、厳正な調査結果を発表した。都心からほど近い荒川において、15種類のバッタ・キリギリスが発見され、地形による生息区分、ひいては同定作業を実現しました。

発見数のランキング

No.	種名	発見数
1	ショウリョウバッタ	52
2	ツチイナゴ	48
3	トノサマバッタ	46
4	オンブバッタ	40
5	クビキリギリス	32

発見種数全15種類の中で、発見種数のトップはショウリョウバッタでした。

土手と河川敷の棲み分け(比率)

注目種	土手 エリアB	河川敷 エリアC
ショウリョウバッタ	1	1
ツチイナゴ	3	2
トノサマバッタ	2	1
セスジツユムシ	2	7

トノサマバッタやツチイナゴなどのバッタは、低層の草地に多く棲んでいることがわかりました。

このプロジェクトの紹介

2012年東京都の「新しい公共」モデル事業小松川自然地・里川プロジェクトの一環として、外来植物の除草や、自然に親しむ自然環境教室などの里川イベントを、シリーズで開催しています。人工の都市河川荒川の最下流に近い小松川自然地は、東京らしい生物多様性を知る最良の可能性を秘めている。東京らしい生物多様性を追求するには、国と役割分担を明確にし、地域の人的リソースと自然を結び付け、活動を運営することが重要です。

【本件に関するお問い合わせ】

里川小松川自然地協議会

【構成団体：江戸川・生活者ネットワーク、中土手に自然を戻す市民の会、下平井水辺の楽校、

NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム、江戸川区】

〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204【荒川クリーンエイド・フォーラム内】(担当：星野・糸岡)

TEL : 03-3654-7240 FAX : 03-3654-7256

renraku@cleanaid.jp

http://www.cleanaid.jp